



# 父として、夫として、研究者として

坂野井 健

東北大学 大学院理学研究科

開催日:2010年11月10日(水)

時間:11:00~12:00

会場:片平さくらホール 2階会議室

共催:生命科学研究科 男女共同参画委員会

農学研究科 男女共同参画委員会

謝辞:本部事務総務部人事課の皆様

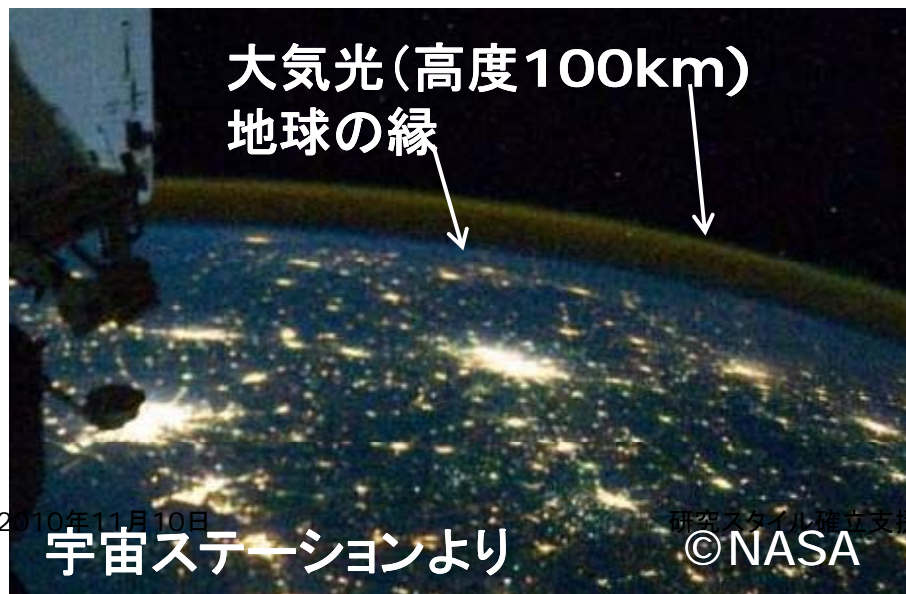
# 内容

---

1. はじめに: 自己紹介、育児休業の一般的現状
2. 育休取得の背景
3. 取得まで
4. 育児休業
5. 育休をとった感想
6. 仕事復帰後から現在まで

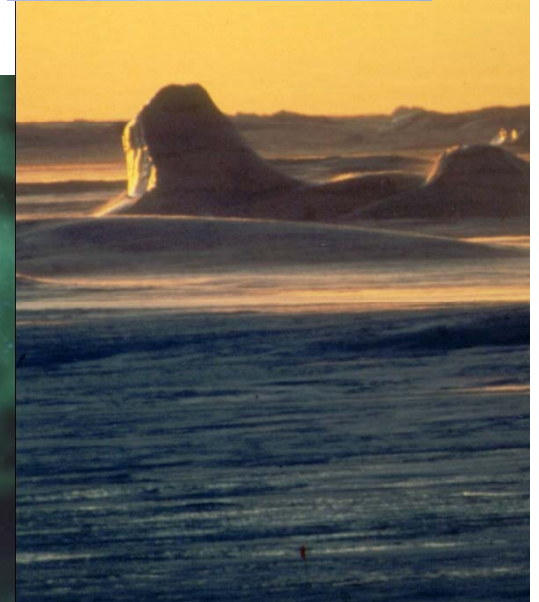
# 自己紹介

- 所属・職:理学研究科 地球物理学 准教授
- 研究:宇宙空間と大気境界の物理過程を主に光の観測により明らかにする。
- 応用:人間の宇宙活動や人工衛星環境  
太陽系外惑星での生命存続条件



# 南極越冬隊 (1995-1997)

転機：研究面(博士課程の途中でテーマ変更)  
プライベート面(結婚、越冬生活仲間)



研究スタイル確立支援セミナー



1997年6月19日(日経)

# 坂野井和代:交代で越冬1997-1999

- 当時同じ研究室
- 帰国後、1999年  
青葉理学振興会  
黒田千力賞
- 現在は駒澤大学  
勤務

南極越冬隊員に初の女性

院生2人  
オーロラや地震観測



1997年6月19日(河北)

1997年6月19日(毎日)

野井さん(右)。左は夏隊に参加する寄高さん

## 夫婦そろっての「快挙」

女性初の南極越冬隊員の坂野井さん



夫の健さんから南極の写真  
現地の様子を説明してもら



東北大  
和代さん(院生)と前夫  
区栗生三  
八日、南極  
の女性越冬  
された。東  
じ研究室に  
けし)さん(院生)も第三  
越冬隊(平成  
二年お

セミナーでどんな話  
すればいいかな?

育児休業もだけど、  
今、子育てしている話をすれば  
良いんじゃない?

月帰国)に参加  
夫婦そろっての  
顔が広がった。  
画)関連記事)  
ん夫婦が所属す  
、東北大学院  
博士後期課程の  
専攻惑星大気物  
理室は第三  
一年お

# 育休の一般的現状

---

- H21年度の取得率は女性85.6%に対し、男性1.72%。
- 休業期間も半数以上が1か月未満と短い。
- 知事・市長や男性タレントが育休取得。「イクメン」が話題に。
- 厚労省は今年6月、男性の育児体験などを紹介するサイト「イクメンプロジェクト」を創設。
- 取得を望む男性は31%に上る (厚労省調査)。
- 6割の男性が、育休を取れることを知らない [#1]。
- 男性が取得しない理由には「職場に迷惑がかかる (8割の男性が感じている [#1])」「必要性を感じない」など。

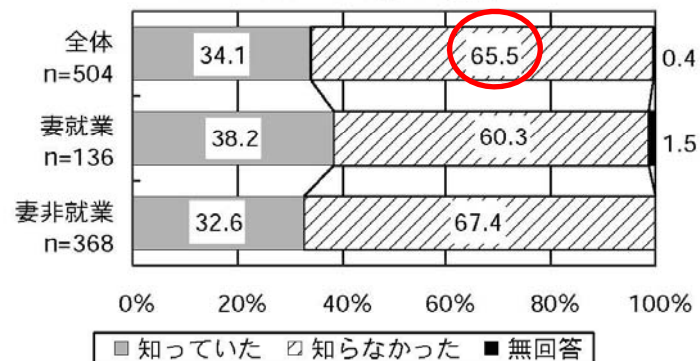
[#1]坂本、ニッセイ基礎研REPORT,12,2002.

[#1以外] Yomiuri online 2010年11月3日.

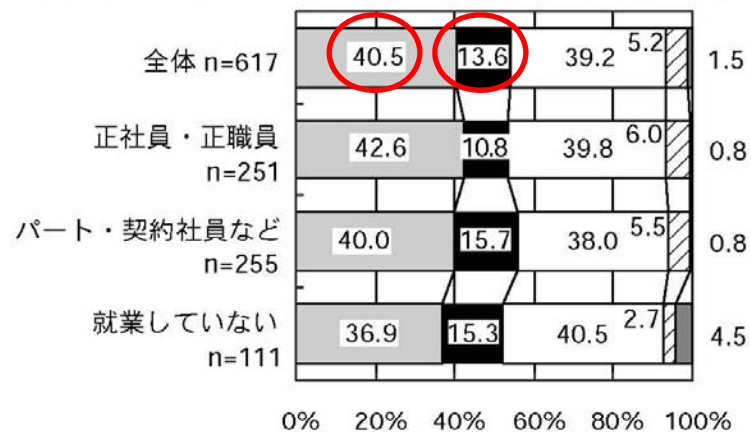
# 育休の統計 [坂本、ニッセイ基礎研REPORT,12,2002]

- 男性育休の認知度:  
6割以上が認知していない。
- 女性の夫に対する希望:  
6割程度が取得してほしいと思っている。

図表-4 産後8週は男性も必ず育児休業が取得できることに対する認知



図表-9 夫に対する育児休業取得希望(女性)

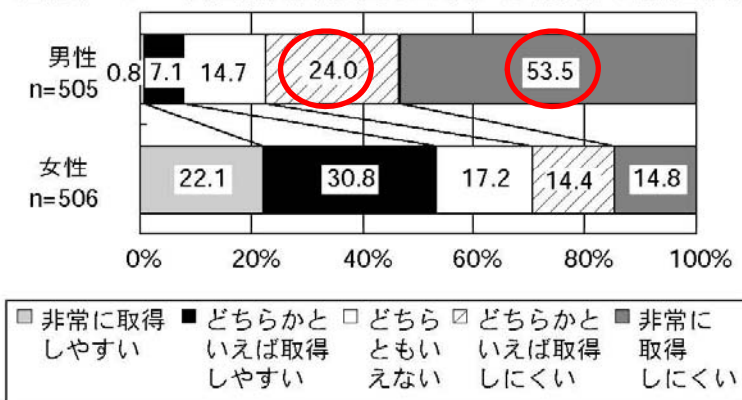


取得してほしい   
  産後8週は取得してほしい   
  取得してほしいとは思わない   
  配偶者は雇用者ではない   
  無回答

# 育休の統計 [坂本、ニッセイ基礎研REPORT,12,2002]

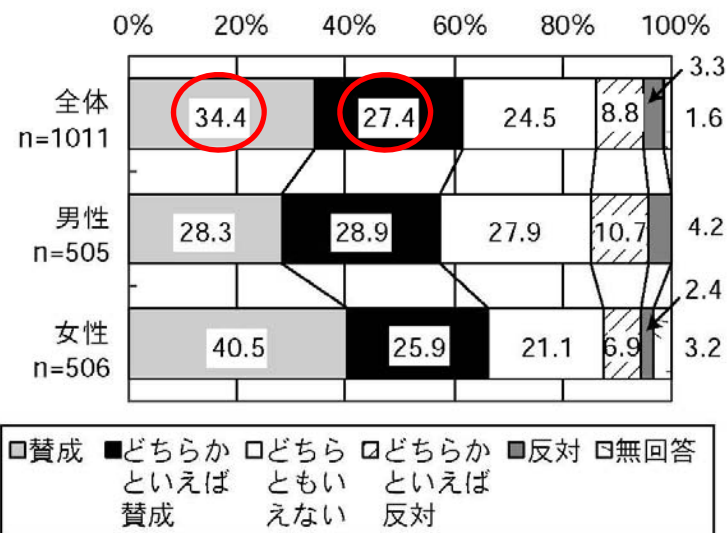
- 育休に対する職場の雰囲気  
男性では、取得しにくい雰囲気  
が約8割

図表-7 育児休業取得に対する職場の雰囲気



- 同僚男性の賛意  
賛成が半数以上、意外に多い?

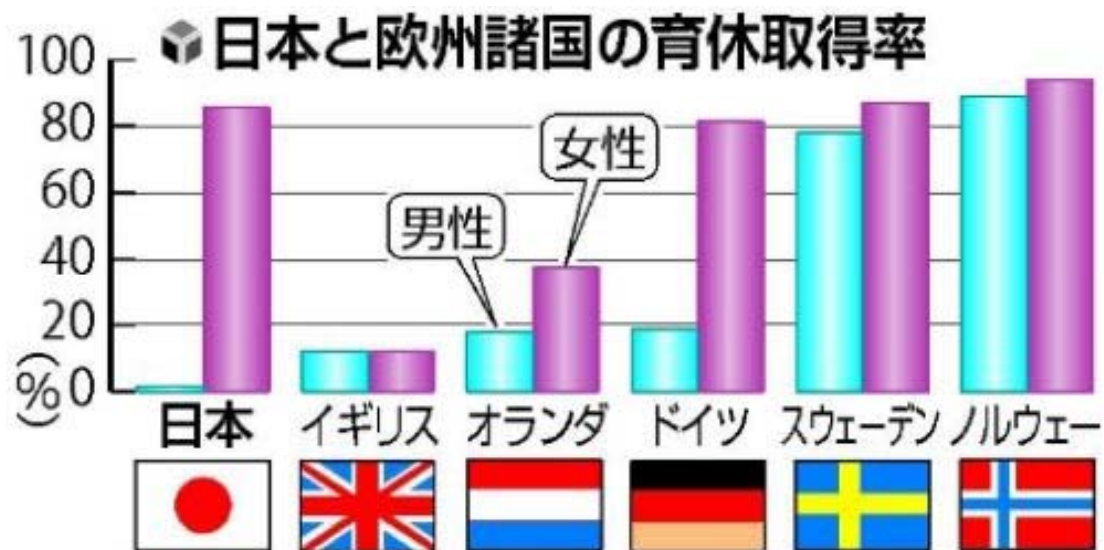
図表-10 同僚男性の育児休業取得に対する賛意





# 日本と欧州諸国の比較

- 日本のみ、男女比が大きく異なる。
- 男性も、周りに育休をとる人が増えれば、取りやすくなるかも。
- 育休をとる人や企業をサポートする制度が必要？

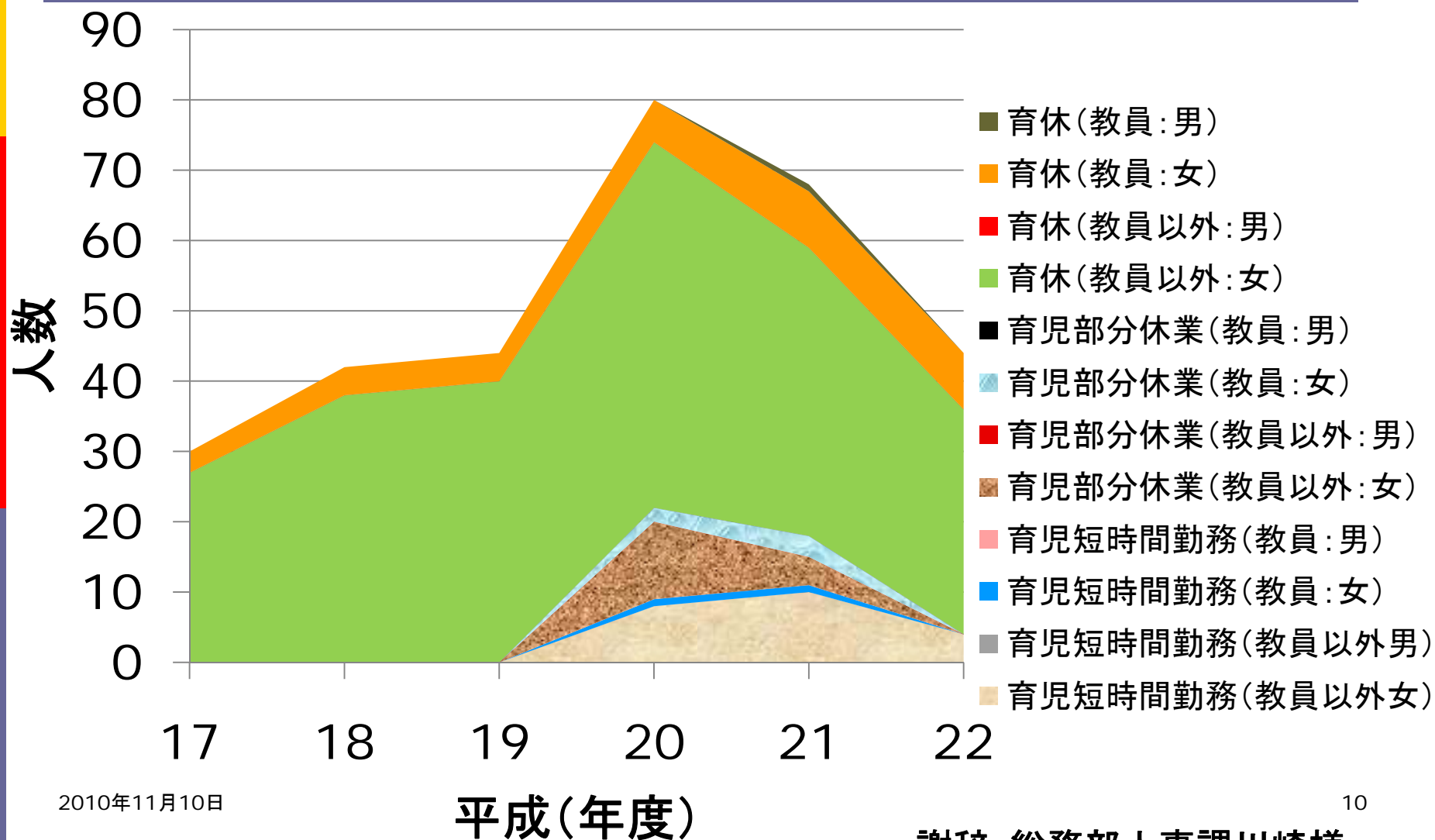


(2008年労働政策審議会分科会資料)

(Yomiuri online 2010年11月3日)

# 東北大学 育児支援制度取得数

H22 教員 男 2,585 女 314, 教員以外 男 1,338 女 1,582



# 女性南極越冬と男性育休

---

- 1997年当時、南極関係者の多くは、「昭和基地に女性越冬なんてとんでもない。トイレ、風呂、洗濯だって…」という意見がとても多かった。

男性育休なんて無理、という見方とちょっと似ている？

- 2010年現在では、毎年数人の女性越冬。「女性がいる越冬環境が普通、前提条件」

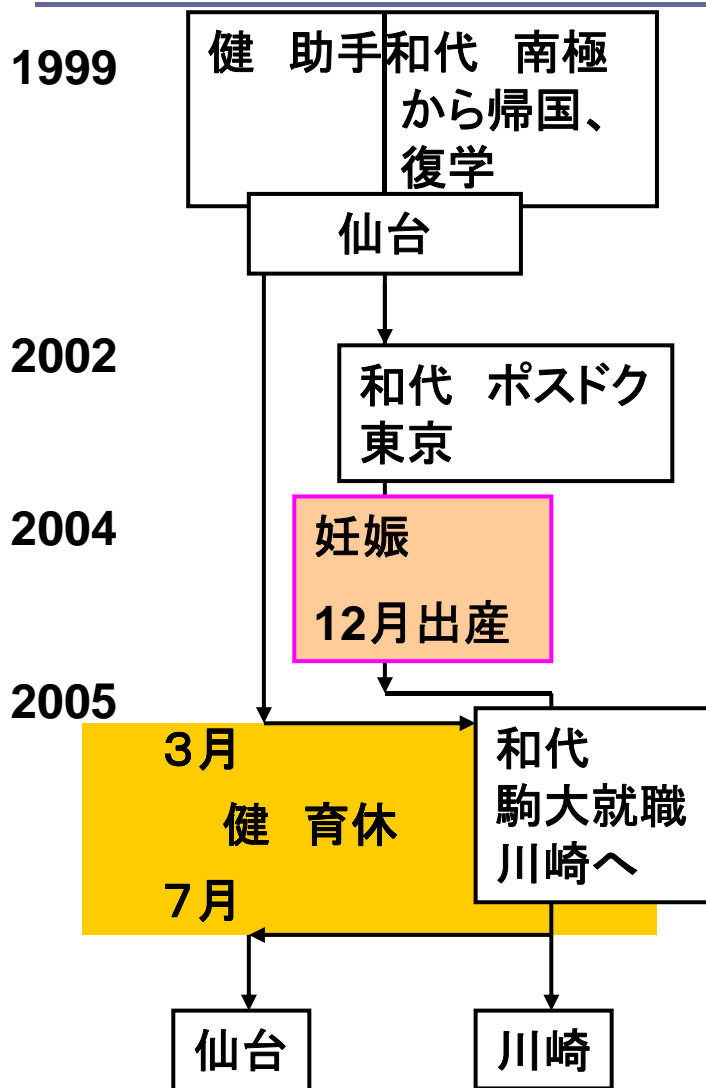
もしかしたら、ちょっとした意識の変化で男性育児も普通に？

# 内容

---

1. はじめに: 自己紹介、育児休業の一般的現状
2. 育休取得の背景
3. 取得まで
4. 育児休業
5. 育休をとった感想
6. 仕事復帰後から現在まで

# 取得の背景(1)

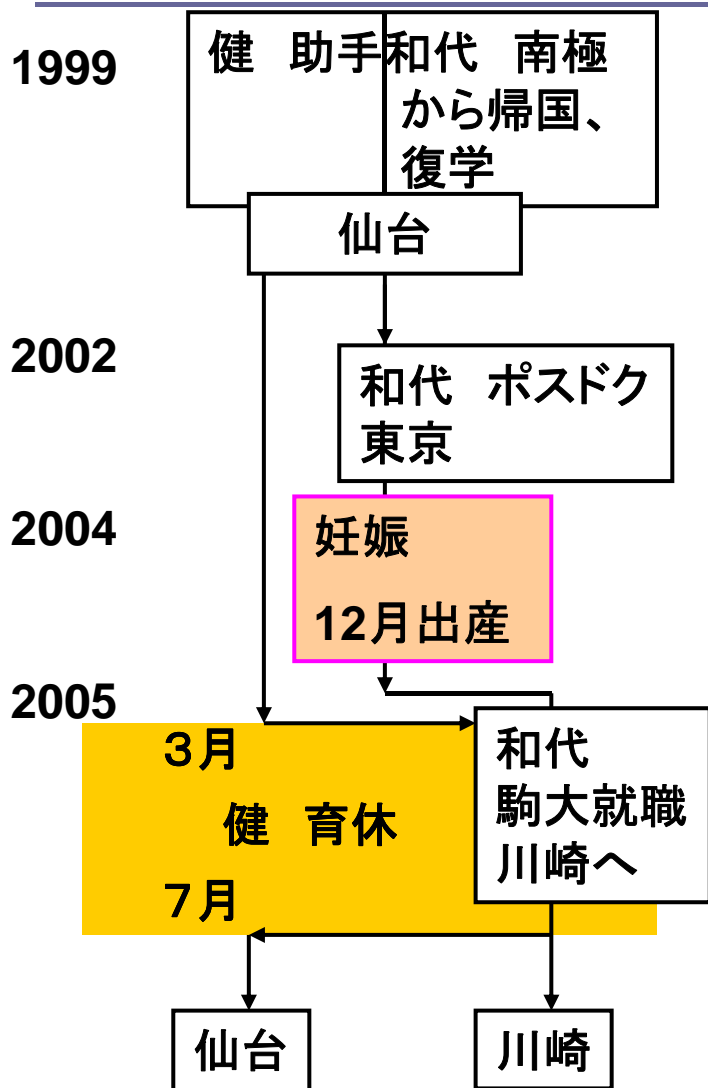


## □ 現実的な理由

### 研究教育職の夫婦の同居は困難

- 健・和代ともに研究教育職を希望していた。
- 健は仙台で定職を得ており、和代は仙台で研究職を探したが、非常に困難。東京で条件の良いポストク職を得、別居生活へ(2002年4月以降)。

# 取得の背景(2)



## □ 現実的な理由

女性研究者の研究業績時期または就職活動時期と、妊娠・育児期が重複

- 和代のポスドクの任期終了がせまり、就職活動しながらの妊娠ライフ。
- 駒澤大学へ就職。**1年目の育児休業禁止。**
- 健が川崎に移動し、2005年3月より5ヶ月間育児休業取得。

# 取得の背景(3)

---

## □ 心理面

男女平等分担: 個人的に、夫婦ともに仕事を持つ場合は、家事・育児をできるだけ平等に分担するものだという考えを以前からもっていた。

*和代発言「女性しかできないことは、出産と母乳だけ。あとは平等」*

好奇心: 赤ちゃんの育児は面白そう、やってみたいと思っていた。

家事: とくに抵抗感や問題なし。

## □ 仕事面

衛星ミッションとの関わり: 機器責任者の衛星ミッションの開発が、たまたま一段落した時期だった。

# 取得の背景(4)

---

## □ 先輩の前例

数年前に、同じ研究室の2つ上の仲の良い先輩が、同じく別居夫婦(仙台-山梨)で、出産を機に育休を取得(半年間)した。

その体験談を聞き、育休制度の具体的なイメージと、内容を知る機会を得た。

また、育休をとっても、研究にハンディキャップを負う不安はなくなった。「1年くらい休んでも、何でもないよ。」



自分にとって育児休業取得は自然なこと。  
可能であればやってみたい。



# 内容

---

1. はじめに: 自己紹介、育児休業の一般的現状
2. 育休取得の背景
3. 取得まで
4. 育児休業
5. 育休をとった感想
6. 仕事復帰後から現在まで

# 取得まで～周囲の反応～(1)

---

## □ 直属の教授、グループ内のスタッフ達

育児休業の希望を伝えたところ、雑務等の負担増があるはずだが、快諾された。

→ 和代の立場や状況は理解されていた。

数年前に育休取得者がいたことで、グループ内で認知度が高かった。

## □ 実質的に研究指導している大学院生達

育休への理解は十分に示してくれた。

しかし、育休中に、実験系の学生は、停滞がみられた。

→ 育休中、川崎滞在で仙台にいなかった。

他人にカバーできない問題。

# 取得まで～周囲の反応～(2)

---

## □ 学科内

担当していた3つの講義に関して、学科の教務担当に育休取得予定を報告する時期が遅れ(秋頃)、次年度の授業担当変更等についておしかりを受けた。代替りの授業担当者を探し、内容や資料等の引継を行った。

→ 早めの周知が不可欠

周囲のスタッフへの明確な負担増

次年度の授業計画立案時期と、妊娠・育休時期のタイ

ミングの問題

# 取得まで 妊娠中のトピック

---

- 妊娠時、健は衛星開発の終盤の山場と重なり、頻繁に神奈川・東京方面へ出張。
- この出張中、東京の和代宅に泊ったが、帰宅が深夜3時、4時、しばしば朝帰り。
- この時期、和代はつわりのピーク。健の深夜帰宅により、和代は慢性的な睡眠不足。不機嫌を乗り越え、仕事にも支障。
- 結果的に、帰宅禁止令が発動。
- 健はホテル泊へ。

→ 夫婦間の理解(つわりへの?)は大切です。

# 内容

---

1. はじめに: 自己紹介、育児休業の一般的現状
2. 育休取得の背景
3. 取得まで
- 4. 育児休業**
5. 育休をとった感想
6. 仕事復帰後から現在まで

# 佑 誕生

- 2004年12月27日  
佑(たすく) 誕生(東京三鷹)
- 2004年11月末-2005年3月中旬  
和代 産休(主に仙台で暮らす)
- 2005年3月-7月末  
健 育児休業(川崎)
- 2005年7月-  
佑 保育園(川崎)。
- 2005年8月-現在  
健 仙台へ



# 育休スタート とある一日

06:00	佑起床、和代つられて起床 授乳	17:00	冷凍母乳200ml
08:30	和代出勤、佑は一人遊び	17:30	佑と遊ぶ、洗濯物とりこみ
09:00	健 佑に起こされる	18:00	夕食作り
午前中	佑と遊ぶ、洗濯、掃除など	19:30	和代帰宅、夕食
10時頃	冷凍母乳200ml、昼寝	20:30	後片付け
12:00	昼食	21:00	佑 風呂
13:00	佑と遊ぶ、メール処理など	22:30	佑 就寝 和代も
14時頃	冷凍母乳200ml	23:00	研究等(メール処理、雑用、 論文書きなど)
14:00	佑を連れて買い物	02:00	健 就寝

# 生活で大変だったこと

---

**家事** 常にやらなければならないことがあり、大変。  
次第に慣れた(手抜き?)。

**「母乳」** 佑が夜中起きて、母乳を催促。たまに夜泣き。

**男性が替れないこと** 和代は何度か乳腺炎で~40℃の高熱を出し、  
夜間救急病院へ(2度)。「時代が時代なら乳母さんやれるよ」

**佑の病気** 母乳の免疫があったためか、育休期間は大病なし。

**事故は起こる** ベビーカーの転倒。  
親が抱っこした状態で、階段を滑り落ちた。  
ベビーベッドから落下。

- 男性育休中でも、女性への負担は大きい。



# 金銭面(収入、支出)

---

- 収入

給与の3割、共済より。(半年後に1割分追加。)

- 出費

仙台のアパートの家賃・光熱費の基本料金

税金(前年度収入に応じて。次年度は減る。)

仙台往復交通費(月1,2回)

ほか雑費(生命保険等)

→ 月3、4万円の赤字

## 育休中の研究 ～どのくらい出来るか～

---

**日中は暇なし** 佑の世話・遊び相手と、家事をこなすだけで精一杯。  
夕食後も風呂に入れたりして忙しい。

**比較的容易なこと** 雑用や、メール対応、学生への指示。

**集中できない** 論文書きなどの集中を要する作業が困難。

**情報や開発から** たまに、仙台へ戻ったり、神奈川で衛星

**取り残されないために** 開発作業ができた。夫婦間の理解が重要。

**子供により** 先輩は、育休中(子供が6ヶ月-1歳)に研究が  
**育児の内容は** 割と出来たといっていた。子供の月齢に依存するかも。  
**は変わる** (私の場合は子供が2-6ヶ月。)

# 育休期間の学生の指導

---

## □ 大学院学生の指導

研究内容が機器開発なので、学生にとって指導者かつ共同作業者の不在は影響があった。

特に、仙台と川崎で距離が離れていたことが大きな問題だった。

月に1回程度仙台へ行ったが、結果的にかなりの開発の停滞や精神的低迷がみられた。

→ 他人がカバーできない大きな問題と思われる。

# 内容

---

1. はじめに: 自己紹介、育児休業の一般的現状
2. 育休取得の背景
3. 取得まで
4. 育児休業
5. 育休をとった感想
6. 仕事復帰後から現在まで

# 感想

佑が2,3ヶ月のころ、当時の保育園の園長先生に、育児休業をとることを伝えたところ…



ぶどうの実園長 堀初恵先生

育児休暇を取るのですか、それは本当によかったですね。一生の宝物を手に入れますよ。

一生の宝物、それは一体なんだろう？ zzz...



## 感想～良かったこと～

---

### 現実的なメリットは確かにある

夫婦共働きで別居の状況に加えて、和代の就職と引っ越しなどの転機と重なったが、お互い研究をあきらめず継続できた。

### 子供との自然なつながりが得られる

朝から晩まで子供と一緒に遊んだり、笑ったり、おむつ替えしたり、泣いて困ったりすることで、男性でも子供とのつながりを自然に感じる事ができた。

### 子供の変化を見るのは楽しい

子供は日々変化していく。それを見ることの驚きと喜びは、他に代え難いものだった。研究上の発見に近い？

### 多くの人への感謝の気持ちを抱く

配偶者はもとより、理解を示し、不利益を受け止めてくれた研究室スタッフや学生に対して、有り難かった。

# ワーク・ライフバランス

---

## これは男女に共通した問題

育休前 周回との調整、仕事の引継、不在中の連絡体制

育休中 割り切って、育休中は育児を楽しむ  
(事実とても楽しい)

夫婦間の協力で、時々仕事にでかけるなど適宜対応

育休後 スイッチを切り替えて仕事を頑張る

→ それぞれの家庭の事情に沿って、男女ともに納得の行く形で、研究・キャリアを継続を。

→ その時、男性育休も選択肢に入れてみては。男性育休が珍しくなくなれば、より取得しやすい心理環境に。

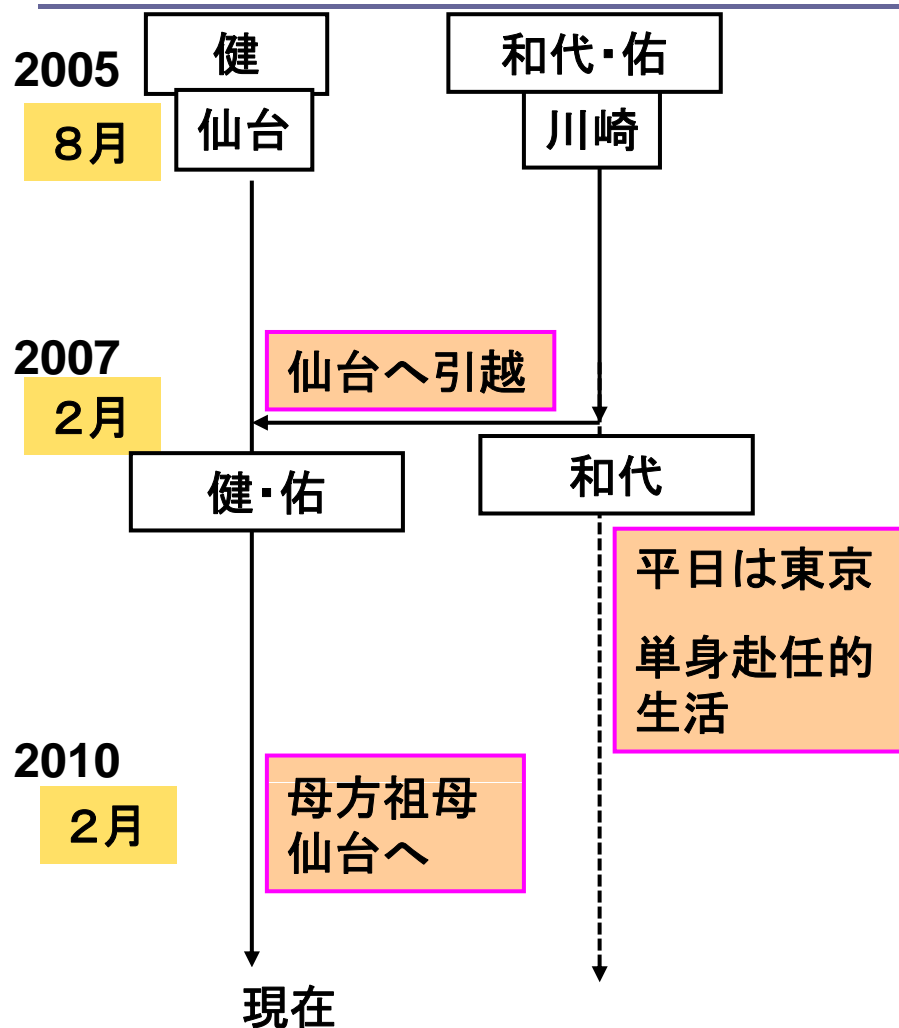
# 内容

---

1. はじめに: 自己紹介、育児休業の一般的現状
2. 育休取得の背景
3. 取得まで
4. 育児休業
5. 育休をとった感想
6. 仕事復帰後から現在まで



# 仕事復帰後、現在まで



- 復帰後、約1年半、佑は川崎暮らしだったが、相談の結果、仙台へ引越し(2007年2月、2歳2ヶ月時)。
- これ以降、和代は、週末のみ仙台に戻る単身赴任的生活。
- 平日は、健が佑の世話。
- 佑は、川内けやき保育園に入園。
- 2010年2月、母方祖母が仙台へ引越し。自宅から徒歩圏内。

# 育児をしてみても

- やっぱり研究時間は減る。
- 日中の仕事密度が濃くなったが、間に合わないこともある。
- 帰宅後、子供が寝るまでは大忙し。
- 家事は(大変だが)抵抗なし。夕食には、食材の宅配サービスを利用することも。

07:30	健・佑起床
08:00	朝食
09:30	佑、けやき保育園へ 健 大学勤務
18:00-30	保育園へお迎え
19:00	帰宅
19:30	夕食
20:00	片付け
20:30	風呂
21:00	歯磨き、洗濯
22:00	戦い(15分間) 絵本、就寝
(~25:00)	(仕事)

# 育児で困難な事： 病気

---

- 和代・佑が川崎にいた時（健が仕事復帰後）
  - (1) 佑はしばしば急病で救急病院に運ばれることがあった。深夜まで点滴。
  - (2) 佑が1歳位の時、和代が急性胃腸炎で、起き上がれないほど（育児・授乳ができない）症状となった。動けない母親の隣で泣き叫ぶ子供。当時の園長先生に助けに来てもらうとともに、出張中だった健も駆けつけた。半日間の出来事だが、距離が離れていると心配。

# 育児で困難な事：出張

---

佑が仙台に引っ越してきてから

- 平均して、月に4,5回国内出張、年に5,6回海外出張あり、この期間の佑の世話が困難。

(1) 日帰り出張：朝8時に保育園に預け、新幹線移動。延長保育にして、20時までに新幹線で仙台へ戻る。

(2) 前日、新幹線移動し、栃木か横浜の実家に佑を預ける。仕事終了後に、佑を受け取り、二人で仙台へ戻る。

(3) 新幹線のプラットフォームでの受け渡しもしばしば。

- 2010年2月に祖母が仙台へ引っ越したため、預けて出張に行くことが可能に。

## 育児の支えとなるもの： 保育園を中心に

---

- 保育園の保護者との交流  
田中真美先生らと「木曜日のファミレス晩ご飯」、  
「夜の動物園」。  
育児と仕事に苦勞されているのを見聞きして。
- 保育園の先生に相談
- 保護者会行事に積極的に参加(おやじの会)

# おわりに： 育児のススメ

- 子供と一緒に、親も成長。子供は親が失敗しても、許し、またチャンスを与えてくれる。
  - 良好な親子関係を目指す過程を通じて、人と人との関係を考える機会を与えてくれる。
- それぞれの家庭の事情に沿って、男女ともに納得の行く形を探し、やりたいこと(研究・キャリア)の継続をあきらめない。
- 男性も育休も選択肢に入れてみては。増えれば、より取得しやすい環境に。
- 仕事100点、育児100点を目指すとは合計200点。そのようなスーパーな人間になるのは無理。時にはあきらめ、仕事70点、育児70点、合計140点を目指そう。

来年4月1日第二子誕生予定です。

# おわり



ご静聴ありがとうございました。